12. Hemochromatosis の一例

中島　鉄夫　前田　正幸　前田　尚利
松下　照雄　早川　克己　山下　敬司
奥村　亮介　松田　豪　木村　一秀
中津川重一　浜中大三郎　小鳥　輝男
石井　靖　（福井医大・放科，放部）
杉原　洋行　（同・検査部）

34歳女性，手術不能の卵巣癌患者が他院で総量10 gの鉄剤静注を受けていた．当院に放射線療法目的にて転院．入院時一般検査にて胆道系酵素の上昇，血清鉄値の著明な上昇を示し，D. Bil 優位の黄疸を認めた．当初閉塞性黄疸を疑ったが，CT，エコー上肝門部に腫瘍を認めず，肝内胆管の拡張も著明でなく，ヘモクロマトーシスの疑診の下に，Deferoxamine で治療を行った．肝胆道シンチでは胆汁の排泄が認められず，Non-diagnostic であった．死後の肝の検索で，鉄が肝細胞に沈着．Hemochromatosis が確診された．本症の診断には，MRI も有力な手段になると考えられた．

13. ^{99m}Tc-フチン酸による自家移植脾生着のイメージング

羅　錫圭　（中国医大一院・核）
栗　維国　（同・アイソトープ部）

最近日本等の国では脾臓の外傷，胃がんの胃全摘術後に脾摘術を行い脾の自家移植が施行されており，また重症の感染や免疫の観点からも検討されている．

移植脾の生着と機能検査方法として ^{99m}Tc-コロイドと ^{99m}Tc-熱処理赤血球を用い自家移植脾のイメージングが行われている．

外傷で脾破裂と診断した8例を当病院外科で脾摘出を行い脾片を大網包埋法で自家移植し，これらの症例を対象として ^{99m}Tc-フチン酸により移植脾のイメージングを行った．術後3～18か月後の検査結果では8例中7例に生着が確認され，画質も良好であった．^{99m}Tc-フチン酸による検査は移植脾の生着とその機能評価に有用であった．

14. 骨スキャン上欠損像を示した症例の検討

多田　明　高仲　強　立野　育郎
柏木　秀一　西　克機
（国立金沢病院・放RI室）

昭和59年1月より61年12月までの3年間に国立金沢病院にて行われた骨スキャン1,005検査の内，欠損像を示した50症例，60回の検査について検討した．骨スキャン欠損像の原因は，1) 悪性腫瘍の骨転移22例．内訳は乳癌11，腎癌4，子宮癌4，原発不明2，その他3．2) 放射線治療後14例．3) 手術や人工骨によるもの10例．その他としてはベルトによる photon defect，慢性骨髄炎，骨梗塞，軟部組織への転移による各1例があった．骨スキャンの対象は悪性腫瘍患者が多く，骨転移の場合でも骨スキャン上欠損を呈することがあることは知っていなければならないが，逆に悪性腫瘍の患者で骨スキャン上欠損を示した場合に，放射線治療の既往，骨梗塞，軟部組織への転移などを鑑別する必要がある．骨転移症例で骨スキャン上欠損を示すものは，すべて X-P あるいは CT で検出できる大きな mass の形成があることを強調したい．

15. Tc-99m-PMT 肝胆道 SPECT の deconvolution analysis による検討

佐久間　肇　加藤　憲幸　前田　寿登
中村　和義　竹田　寛　権　重禄
中川　毅　山口　信夫　（三重大・放）

Tc-99m-PMT による経時的肝胆道 SPECT データに deconvolution analysis を行い，肝の transfer function (TF) を求めた．各画素ごとの TF より最小，平均，最大通過時間および initial height を求め，おのおのの値の分布を示す functional image を作成した．Functional image により局所有効肝血流量の分布と局所排泄機能の分布が3次元的に示された．正常6例，肝硬変8例において全肝有効肝血流量と平均通過時間の間に有意の逆相関が認められた ($r=-0.60$, $p<0.05$)．肝硬変例では一般に通過時間が遅延する傾向がみられたが，正常の通過時間を示す例も存在した．肝硬変8例中4例で，有効肝血流量の低下を伴う排泄遅延の segmental な分布が認められた．

Presented by Medical*Online